

大衆文化としてのジェノサイド、「トラッド」と「ライタ」のヒンズー至上主義の世界

アリシャン・ジャフリ & ナオミ・バートン著、脇浜義明訳

The Wire, 2022年1月10日

インドには、モディ右翼政権より過激な「トラッド」と呼ばれる教育レベルの高い若者ネット右翼が活動、オンラインヒンズー至上主義民兵としてムスリムやカースト制の被差別者を迫害している。一訳者。

1月4日、ムンバイ警察は、ブリ・バイ・アプリを使用してムスリム女性を人身売買競売にかけるというオンライン・ハラスメントを行った二人の女性を逮捕した。シュエタ・シン（18才）と友人のビシャル・ジア（21才）である。今インド社会で流行している疫病と言える新種の過激派多数者支配主義のオルタナ右翼思想の若者である。この事件の前にも、ムスリムインド人のヴィラード・コーリーの娘をレイプするという脅迫をネットにポストしたインド工科大学の男子学生がいた。これは道を踏み外した高等教育水準の若者の例外的事件でなく、今や一つの潮流となっている。彼らは、モディ政権の公的ヒンズー至上主義（Hindutva）が「プラグマティズム」に毒されて、ムスリムやダリット¹に対して「ソフト」すぎると憤っている。彼らはオルタナ右翼思想「ヒンズー国家主義」（Hindu Rashtra）に感化された若者たちである。

この数年間に「トラッド派」（伝統派）と呼ばれるデジタル・オルタナ右翼エコシステムに惹かれる若い男女の数が急増した。彼らは文明の戦士と自称して活動している。トラッドは他の右翼をリベラルすぎると見て、「ライタス」（raitas）と呼んだ。「ライタス」の呼称は右翼を表す英語の「ライト」の複数形とインドのいろいろな素材で作るヨーグルト状の食べ物ライタを合成したもの。ライタスは神学としてよりも象徴的にヒンズー民族主義をとる名目だけのヒンズー主義（raita faikama）だとトラッドは非難する。しかし、ライタスはナレンドラ・モディ首相のヒンズー民族主義で十分ヒンズー至上主義が促進されると考え、彼らの方が主流である。

トラッドはもっと厳格な宗教的至上主義で、モディのように政治的便宜やプラグマティズムのために原理を曲げることに不寛容である。彼らはライタスを穏健派で、左翼やリベラルに甘いと蔑んでいる。

このような右翼サブカルチャーの分離が顕著になったのは、西ベンガル州選挙の後で起きた殺人、強姦、破壊を伴った暴動と、モディ政府が農民の抗議運動に屈して、提起していた悪名高い農業法を撤回したときからである。ライタスはモディのプラグマティズムに賛成したが、トラッドはモディを穏健派になったと非難した。トラッドは従来のヘイト犯罪団体と区別される自立的で原理主義的な新しいオルタナ右翼という性格がある。

若者たちは損得を考えずに、自分の意志でこのオルタナ右翼アソシエーションに参加する。かなり運動への忠誠心が強いオンライン軍隊となる。非常に歪んだ形の政治参加である。

オルタナ右翼という表現法は西洋社会の「オルタナ右翼」 — 差別是正政策アファーマティブ・アクション、マイノリティの保護、自由主義的価値観に激しく反対するネオ・ナチのオンライン・エコシステム — から借用したものである。教育水準が高いカーストの上位階層のヒンズー教徒の若者が「カエルのペペ」のような西洋社会のオルタナ右翼のシンボルを取り入れたのである²。2005年に政治とは無関係に登場したこの漫画キャラクターは2015年頃にはカルト的存在に成長し、やがて米国の白人至上主義者が黒人差別のシンボルとして取り入れた。

カエルのペペ自体には何ら構造的な差別性ないが、新たな嫌悪の図像として、歴史的伝統に乗って、一つのサブカルチュアを形成するようになったのである。

前述のシュエタ・シンも、選良人種アーリア人がもっと子孫を増やせと説くナチのプロパガンダ・ポスターと真似たヒンズー至上主義プロパガンダを作成してネットの流して有名になった。ムスリム女性の強姦脅迫で逮捕された大学生ニーラジュ・ビシュノイも自分のネット・アカウント@giyu44を使って、ムスリム女性を「売り出し中」という悪質なブリ・バイ・アプリ事件に関して偽情報を流して、捜査妨害した。

訳注

1 カースト制最下層の不可触民扱いされる人々。

2 「カエルのペペ」はウェブ漫画のキャラクター。本来政治的に無色だったが、2015年頃からオルタナ右翼が人種差別のシンボルとして使い始めた。